

<h1>第 334 回 月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長 西山	企画運営委員 保科

- ◎ 日 時 2021年7月16日（金）13時00分～16時30分
- ◎ 場 所 リモート開催（Zoom）
- ◎ 出席者 23名（個人会員6名、企業・団体会員10 法人17名）

1. 企画運営委員長 挨拶 13:00～13:05

主な内容：ワクチン接種が進んでおり、年内の対面開催や忘年会などを検討する。

2. 自己紹介・トピックス 13:05～13:30

主な内容：・認証機関より、海外向けの機械に関する文書が多すぎるとの指摘があり、どのような点を考慮すれば良いか、月例会で意見を伺いたい。
・中越沖地震から14年、当時はリスクアセスメントにより設備転倒防止を進めたが、その後の固定方法の標準により日常業務として定着した。
・九州地区の展示会において、リスクアセスメントを知らない企業が多く規格を見ながらやっておけば良い、といった大企業も見受けられた。
・ダイキャストマシン用の集塵機で発生した火災に対し、ダクトの見直しなどの再発防止を進めている。

3. 討議テーマ「リスクアセスメントの再考」

報告されるリスクアセスメントのポイントと事例紹介を基に討議する。

1) 報告「リスクアセスメントが本来の機能を発揮するためのポイントとは」

13:30～14:00 企画運営委員 石原立憲

表題の5項目として、重要危険源の見逃しが無い同定方法なのか、リスクを見積もり評価するやり方は論理的かつ具体的な内容なのか、リスクアセスメントの実施体制は適切なのか、などを説明した。

2) 報告「会員企業のリスクアセスメント活動の紹介」

14:00～15:30 大森機械工業(株) 増田、金子

大森機械工業は、ピロー包装機など包装機械を展開している企業である。日本包装機械工業会の安全基準に従い、リスクアセスメントを実施している。会社の概要、包装機械の動作、リスクアセスメントの実施事例などを紹介した。

主な質疑

- Q 事例は国内・輸出の両用だが、書類はCE対応で認証機関に提出したものか？
- A 事例は寄せ集めで、通常は仕向地専用の仕様とするため事例の記述と異なる。
欧州の展示会へ出展する際、そのまま販売するため、当初からCEと対応する。

Q 包装機械工業会の安全基準の危険源リストは、自社機械に対し過不足はないか？

A 製品の流れ、包材の流れ、エネルギーの伝達の順番で、危険源を同定している。

Q 1件/月の頻度で送られてくる客先からの事故情報はどのようなものか？

A クレームとして上げられているが、確認すると使い方の間違いの事例が多い。
情報をサービス員に展開し、関連する客先へ使い方の注意情報を提供している。
逆に、仕様上の問題がある場合には、設計変更によりクレームを終結させる。

Q 提出済みの残留リスクのマップ・一覧の訂正を、客先から要求されているか？

A 昨年・一昨年に要求が多かったが、最近は少なくなった。

Q リスクアセスメントの曝露頻度の意味は、危険区域内へ入る頻度か、危険区域への接近も含めるのか？

A 段取作業など危険区域に接近する場合も含めた頻度としている。

Q 設計工数を削減するために、リスクアセスメントシートを再利用しているか？

A 似たような機種を参考にしてリスクアセスメントを行う程度までである。

Q リスク見積もり・評価とパフォーマンスレベルを分離した方が良いと思うが？

A リスクアセスメントシートの帳票書式の変更を検討したい。

Q 包装機械工業会の安全基準は、いろいろな仕向国に対応しているのか？

A CE対応であるため、仕向国の法令や規格を設計者が調べて対応している。

3. 討議テーマ「危険源同定の方法についての再考」 15:40~16:30 企画運営委員会

重要危険源のリストアップの抜けもれのない手法について討議する。討議を始める前に、国際規格にある危険源、危険状態、危険事象を再確認する。

主な討議

- ・危険源同定は、危険源～危険状態～危険事象までのシナリオを描くことである。危険状態・危険事象を十分に考慮しなければ、正確なシナリオにならない。
- ・使用者が行う作業などを、意図する使用として余すことなく上げていなければ、危害に至るまでのシナリオを描くことは難しい。
- ・5W1Hを明確にして、リスクアセスメントシートを記述するよう指導している。
- ・安全防護がない状態を想定すれば、危険源の見落としはなくなるのではないか？
- ・動作頻度や接近頻度が低いことを理由に、危険源を除外しないことが重要である。

4. その他

- ・アンケートを活用して、大森機械工業のリスクアセスメントへ助言していただく。
- ・次回335回月例会では、アイシン(株)よりリスクアセスメント事例を報告いただく。

月例会説明資料：会員専用ページに掲載

資料番号	資料名
334-2-1	テーマ「リスクアセスメントが本来の機能を発揮するためのポイントとは」

以上